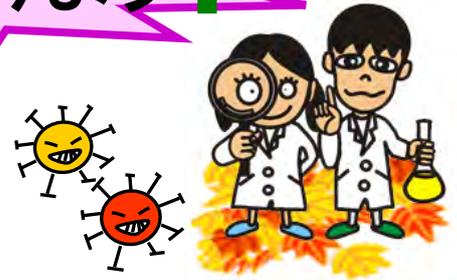
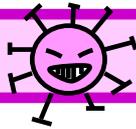


感染症に気をつけよう!

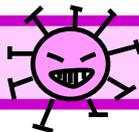
2016年【11月号】

横浜市内の感染症 流行状況

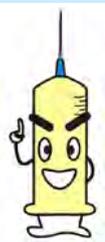


感染症	流行状況		説明 【解説付き既刊号等】 ← クリック
	流行状況	流行状況	
インフルエンザ	やや流行 増加	増加	報告が増える時期が例年より早いです。予防や早期受診など、今から十分注意しましょう。【'16.2号】【ちらし】
RS(アールエス)ウイルス感染症	流行	横ばい	例年に比べ大幅に多い状態が続いています。特に乳幼児では重症例もみられ注意が必要です。【'16.10号】
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	やや流行	横ばい	全国的に例年より多い状況が継続中で、市内でも注意報レベルの区があります。【'16.6号】【ワクチンちらし】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- すでに学校や高齢者施設で、集団発生も起きています。
- 10月上旬には、今シーズン初めての学級閉鎖が報告されました。



- 特に、高齢者・小児・妊婦や、ぜん息などの持病があると重症になりやすいです。
- 予防の基本は、正しい手洗いを習慣にすることです。ワクチンも大切です。
- もし咳や熱などの症状が出てしまったら、咳エチケットを守り早目に受診してください。



- 熱が下がってからも、数日間は人にうつす可能性があります。
- 学校等については、「症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は休むこと」とされています。かかりつけ医に相談しましょう。

